

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4571500471		
法人名	株式会社 はまゆう		
事業所名	グループホーム あけぼの苑 A棟		
所在地	宮崎市田野町あけぼの2丁目32-1		
自己評価作成日	R1.12.9	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 宮崎県介護福祉士会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2-22 宮崎県福祉人材センター人材研修館内		
訪問調査日	令和2年1月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域とのつながりを大切にしながら、多くの人と関係性を持ち、認知症一人一人が役割を持ち続けながら、穏やかな雰囲気与生活をしていく。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム周辺は新興住宅地で自治会の無い地区であるが、積極的に近隣との関係を築き、多くの近隣住民がホームの祭りに参加している。地区内の保育園の訪問もあり、社会的な交流を図ることができている。ホームの畑では職員が入居者と一緒に野菜を育て、収穫した新鮮なものを食事に取り入れている。季節を感じ、楽しみを持ってもらえるよう、全入居者と紅葉狩りに出かけ、手引き歩行で歩いてもらうなど、できることを継続する取り組みも行っている。入居者は外部からの訪問者を笑顔で迎え、落ち着いた雰囲気でも過ごされている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	棟別で介護理念の見直しを行い、職員の意見や案をアンケート方式で出してもらった。継続で行くのか、新しく構築するか検討中である。	玄関にホームの理念を掲示し、各棟にそれぞれの介護理念を掲示している。理念は各棟の職員が全員で話し合いを行い、見直しを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	実習生や見学者の受け入れは常に行っている。夏祭りでは多くの地域の方々が来苑され、盛況であった。又、月1回で、「傾聴ボランティア」や「ほほえみ紙芝居」のボランティアの方が来られて交流出来ている。	周辺は新しい住宅地で自治会が無いが、ホームの祭り案内を500部以上配布し、声掛けを行い、多くの住民が祭りに参加している。地区内の保育園児の訪問もあり、交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	周囲には自治会もなく、地域の方々へ向けての発信する場が少ない為、取り組みが難しい状況である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	多職種の方々に出席して頂き、色々な意見をもらいながら、サービス向上に活かしている。(利用者様ご家族・JA田野・包括支援センター・民生員・地域の方)	会議では収支状況まで報告を行い、もらった意見をサービスの質の向上に活かしている。家族の参加が増えるよう、ランチミーティングを取り入れるなどの工夫をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設長は機会ある毎に、総合支所や包括支援センターへ出向き、現状報告等をする事で、協力関係を築けるように取り組んでいる。	運営推進会議には地域包括支援センターからの出席があり、様々な意見をもらっている。また、総合支所へ出向き、ホームの空き状況を伝える中でアドバイスを受けるなど、積極的に連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・研修会がある度、職員が参加している。 ・身体拘束委員会があり、定期的に現状報告・検証・見直しを行い、その結果を職員全員で共有し、正しい理解と意識づけに努めている。	身体拘束廃止のための委員会を設置し、全体ミーティング時に職員一人ひとりが日頃の対応の振り返りを行ったり、学びの機会を設けている。外部の研修会にも積極的に参加している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・研修会に参加した際は、ケース会議で発表・報告を行い、虐待が見過ごされない様に取り組んでいる。 ・棟別会議では、言葉づかいや自分達の対応について振り返りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の権利擁護や成年後見制度の研修に参加し、全体会議にて勉強会をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、締結・解約共、重要事項を使用し、より理解できる様、説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会にて、利用者や家族、地域の意見を聞き、全体会議にて全職員に反映させている。また、玄関に家族等の意見を議事録とし、誰でも閲覧できる様にしている。	運営推進会議への家族の参加は固定しているため、遠方の家族へは月に1回の面会時、意見を聞く機会を作っている。敬老会では家族懇談会を開き、意見や思いを聞き出せる工夫をしている。	運営推進会議議事録は閲覧できるよう玄関に配置されているが、ホームの便りと一緒に議事録を送付するなど、委員会等の取り組みや研修状況などを周知できるよう期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議に参加をし、意見を聞き、疑問が強いスタッフには個別に意見を聞き、まとめて全体会議にて反映している。	施設長が各棟の職員一人ひとりと面談できる機会を設けている。自由に話せるよう心掛け、悩みなどを聞くことができている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の努力や実績、勤務状態により、給与一覧表により見える化を行い、キャリアアップできる環境を構築している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各スタッフと管理者が、定期的には面談をし、力量を把握をし、法人内外の見合った研修を促して、トレーニングをしていく事を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	わくわく介護塾協議会や、グループホーム連絡協議会や地域のたこの会へ参加できるスタッフには促し、他の施設の職員と交流し、ネットワークづくりや勉強会に参加して質の向上へ取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所が決定した際には、本人・ご家族・かかりつけ医から聞き取りを行い、情報収集に馴染みの生活環境を把握するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に御家族の要望や、不安に感じている事等をしっかり聞き取り、その気持ちを受け止めると共に、安心して頂けるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネが窓口となり、本人・ご家族の実情や要望を聞きとり、何が必要かを見極め、安心・納得して利用頂けるよう柔軟な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・日常的に家事を共に行いながら、その方の昔話や趣味の話など交えている。 ・畑に野菜を植える際や料理の下ごしらえをする際には、アドバイスを頂いたりすることで、各々の個性を知ろうとしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族面会時には、本人と談話された後などに、本人の様子(健康面・変化等)を伝え、時には意見を頂きながら共に支えていく関係を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族対応で病院受診をされる際に、その後本人馴染みの場所へ一緒に行って下さるようお願いしている。(自宅・外食・他施設への面会)	入居者それぞれの自宅周辺にドライブに出かけている。地域包括支援センターが運営する認知症カフェにも定期的に参加している。入居者と家族とのつながりを大切に考え、食事会などの開催も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールでの席の配置を考慮し、一人ひとりが孤立しない様にしている。 時には職員が間に入って共通の話題が引き出せるような雰囲気を作り、利用者同士、良い関係が保てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人・ご家族の要望があれば、いつでも相談や支援ができるようにしている。 転居先の関係者に本人の状況・習慣・これまでのケアの情報を詳しく伝え、継続性等に配慮してもらえるよう働きかけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の思い・傾向を伝える事が出来ない方が多いので、ご家族にその都度話を聞いたり、本人が日常会話の中で出てくる言葉から、本人の意向としてくみ取る事をしている。	思いや希望を会話の中で聞き出せるよう努めている。会話が難しい入居者へも、表情などから何を望んでいるのかをくみ取る努力をしている。買い物や畑仕事を楽しみにしている入居者もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人を含めご家族の方・友人・知人に、最初の面談時から又、随時聞き取りを行っている。 自宅訪問を行い、周囲の環境・交通機関・医療機関(主治医)・親しい友人など状況把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の体調や活動記録を行っている。 出来る事・出来なくなってきている事等の変化にも気を付けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者・管理と毎月モニタリングを行い、本人の現状把握、プランの評価、変更等を行っている。 月1回の棟別話し合いで、全職員の意見を聞き、チームケアを行っている。	モニタリングは全体ミーティングの後に毎月行っている。担当者会議は家族の日程に合わせて設定し、要望は一度ケアプランに落とし込み、実施した結果を知らせるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテ・日誌の情報から、すぐに実践すべき事、検討を要する事等、慎重に吟味しながら実践・プランの変更等を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	夜間の対応では、ベッドから滑り落ちの危険のある方、夜間不穏のある方はベッドから畳に対応したり、ご家族の方と電話で会話してもらったり(そのことで落ち着かれる。)その日・その時に合った対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に1回…傾聴ボランティア・紙芝居 2か月に1回…美容師に散髪依頼 年に1回…実習生の受け入れ		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人・ご家族の希望を大切に、馴染みのかかりつけ医での受診を基本としている。 ・専門医での受診(歯科・皮膚科・泌尿器科・眼科)も各々のかかりつけ医に行かれている。	入居者はそれぞれ、在宅時の主治医に継続して診てもらっている。希望があれば協力医療機関へ主治医変更できるよう配慮している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で捉えた状態変化や異常は、その都度すみやかに上司(看護職)へ報告・相談し、本人・ご家族の希望を重視しながら医療支援に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が不安・ストレスを感じる事なく、安心して治療ができるように、ご家族・医療機関との情報交換は積極的に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針を作成しており、担当者会議で家族は十分に説明を行い、理解して頂けるように取り組んでいる。 「かかりつけ医・協力医療機関」への相談も行い、指示等を頂いている。	入居契約の段階から、ホームでの対応を説明し、本人・家族の終末期に関する意向を伺っている。身体状況に合わせて、スムーズに医療機関へつなげられるよう連携を図りながら対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は出来ないが、機会ある度に対策を話し合っている。発生時には慌てず、適切な行動がとれるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年2回の定期的火災・避難訓練を行い、又自主的施設職員の訓練も行っている。 ・地域や近所の方々に夏祭りの案内を出し、施設に来ていただき、その都度顔なじみの環境づくりを行い、緊急時の御願いをしている。	避難訓練を年2回実施している。避難場所として近隣の小学校や中学校へ協力の依頼を行っている。避難時の付き添いには家族への協力ももらえるよう呼び掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月の会議の後に、利用者様に対する言葉かけや対応について、職員全員で振り返る時間を作り、誇りやプライバシー確保について話し合っている。	身体拘束委員会の研修時にプライバシーの確保やクレームの対応などについて、学びの機会を設けている。職員は言葉の暴力の意味について深く理解できている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	朝のバイタル測定時～レクリエーション～リハビリ歩行～家事作業等、共に行う際などで、その時の本人の思いが引き出せるような声掛けを行い、又、表情・仕草からの読み取りに心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	午前中は、体調観察のためのバイタル測定と利用者同士の交流・リハビリ運動の為、ホールに集まって頂くが、午後は各々のペース・希望に添って過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・本人の好みや意向に添いながら、身だしなみ・清潔には気を配っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・ホームの畑で利用者と共に収穫した野菜や、毎日の買い物で新鮮な食材を使って、調理提供している。 ・メニューの説明を行い、準備や片付けを職員と共にして頂いている。	ホームの畑で収穫した野菜を食事で提供している。毎食事、入居者へは献立の説明をしている。食べたいと希望のあった食事を提供できるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・その方に合った食事形態で提供。 ・明らかに水分摂取が足りていない方は、一日の水分量を記録し、好みの飲み物(ジュース)を提供し補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・全員毎食後に口腔ケアを行っている。 各々の力に合わせたケアを支援。 ・週3回の義歯消毒も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレの訴えが出来てない方には、声かけにて提示誘導を行っている。 夜間は歩行が出来る方は見守りの中、トイレ誘導を行い、排泄される。一部の方のみ室内にポータブルトイレを使用される。	日中はトイレで排泄できるよう声掛けし、誘導している。入居当時リハビリパンツ使用だった入居者が布パンツ着用へ変更となった事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排泄チェックを確認して、その方に応じた対応を行っている。 かかりつけ医と相談しながら、緩下剤でのコントロールを行っている。又、水分補給・排便体操・歩行運動を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々に添った支援は出来ていない。 入浴時、拒否がある利用者様には、無理強いせず、訴えを傾聴し対応を行っている。	1日おきに入浴できるよう努めている。入浴時間以外の希望者はいないが、午後からお風呂ということを入居者が把握し、楽しみにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の状況に応じて、自室や畳の間で静養を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院からの薬情の処方箋を必ず職員は確認し、理解してカルテに綴っている。 薬が変わった際、副作用に気を付けながら、変化があれば、カルテに記入し、かかりつけ医に相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の生活歴を活かしながら、その方に合った役割・楽しみごとをプランに取り入れ、支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりのその日の希望に添るのは困難であるが、利用者様2名ずつ、第2木曜日に認知症カフェを利用したり、家族の協力で外出される方も数名いる。	年間行事の中で外出の予定を立てている。 お孫さんの面会に合わせて、事前に駄菓子を買に行かれる入居者の希望を取り入れたり、紅葉狩りや足湯へ外出した時のスナップ写真を各棟に掲示し、外出後も楽しめる工夫がされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・本人様がお金を所持して頂く事は行っていない。 ・外出・買い物企画では職員が付き添い、お金を渡し、使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様からの希望があれば、いつでも対応ができる様にしている。自ら電話をかけることが出来ない為、職員が対応を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間では常に清潔に心がけ、季節的な野菜・花を飾っている。又、好みの音楽をかけて居心地よく過ごせるように工夫している。	季節感を感じられる折り紙や生け花などを共同スペースに飾っている。正月用の生け花は入居者全員が楽しんで取り組まれた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや畳の間を使い、一人の空間を使ったり、席の配置もその都度変えて、気の合った利用者様同士で交流を図れるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具や好きな動物のカレンダーを貼ったり、家族写真を飾って居心地よく過ごせるように工夫している。	自宅で愛用していた馴染みのタンスや布団、ぬいぐるみなどを持ってきてもらっている。居室のポータブルトイレには、職員手作りの目隠し用カバーがかけられており、プライバシーに配慮した工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒リスクが高い方の居室内では、マットを敷いてご自身で動けるように工夫している。 各々の居室やトイレを分かりやすい様に表示している。		